

いまでも息づく平安王朝の雅

認定理由

かな文字、和歌、物語、大和絵、寝殿造などが生まれた平安時代、京都は貴族を中心とした王朝文化の舞台となった。御所や離宮などの建造物や庭園、葵祭などの行事が、その時代の雅を今に伝えている。政治・儀式に必要な調度品や公家や貴族の身の回りの道具などのものづくりには、洗練された意匠が求められ、担った職人たちによって培われた匠の技は、時を越えて、現在の人々の暮らしに活かされている。後世から憧憬の対象として意識され、広く文化芸術活動に影響を与えてきた王朝文化の美意識は、京都の人々の心の中に脈々と息づいている。

主な構成遺産

平安時代に生まれた王朝文化



源氏物語

平安中期の紫式部作の長篇物語。古典文学の傑作。その中で表現された美意識は、後に制作された大和絵の絵巻物と併せ、京の美術工芸に大きな影響を与えた。



御堂関白記

藤原道長が著した日記。近衛家の陽明文庫が所蔵。現存する世界最古の直筆日記とされる。国宝・ユネスコ記憶遺産



京都御所

平安時代の内裏の形態を今日に伝えている建物で、現在のものは江戸末期に再建。紫宸殿、清涼殿など平安時代の建築様式を知ることができる。



嵯峨嵐山

平安遷都以降、貴族たちの別荘地として栄え、この地に因んだ和歌も多い。一帯には百人一首の歌碑が立つ。三船祭など王朝ゆかりの行事も多く行われる。国史跡名勝。



賀茂祭(葵祭)

賀茂別雷神社(上賀茂神社)と賀茂御祖神社(下鴨神社)の例祭。「路頭の儀」は、王朝絵巻さながらに行われ、祇園祭、時代祭とともに京の三大祭とされる。



法界寺

平安時代、浄土信仰は貴族に深く浸透し、仏教建築や仏像、絵画などにその影響を残した。法界寺の阿弥陀堂(国宝)は典型的な阿弥陀堂建築の一つ。堂内には定朝様の阿弥陀如来像(国宝)が安置され、周りには、絵画史上貴重な天人の壁画(重文)が描かれ、極楽浄土の世界を表している。



阿弥陀如来像



大覚寺

嵯峨天皇の離宮を寺院に改めた門跡寺院。寝殿造の宸殿(重文)は、東福門院の旧殿を移築したと伝わる。大沢池は平安期の庭園(国名勝)



法金剛院

法金剛院の庭園は、待賢門院が造園させた数少ない平安期の庭園(国特別名勝)。阿弥陀如来坐像は平安後期の定朝様の仏像(重文)



上賀茂神社・下鴨神社

平安遷都後の皇城の鎮護社・賀茂社。上賀茂神社の本殿(国宝)と下鴨神社の東西二棟の本殿(国宝)はともに平安時代の「流造」の建造物で江戸期に造替された。

受け継がれる王朝文化の美意識



雅楽

大陸から渡来した音楽や舞に日本古来の音楽が融合した独自の宮廷文化。10世紀頃完成し、宮中で伝えられてきた。



蹴鞠

蹴鞠は平安初期、宮中で儀式化され、以後、御所の伝統芸能として伝承。その後、京都蹴鞠保存会により下鴨神社で復活。市無形民俗文化財



桂離宮

江戸期、八条宮初代智仁親王と二代智忠親王によって造営された。庭園や書院、茶庭には王朝文化を意識した意匠がみられる。



曲水宴

平安時代、朝廷や公家の間で行われていた年中行事の一つ。城南宮、上賀茂神社、北野天満宮で再現されている。



鵜飼

嵐山の鵜飼は夏の風物詩。平安時代、鵜を使って捕られた鮎は天皇や貴族の食材となった。また、かがり火を使ったその漁法は、貴族にも親しまれていた。



京料理

公家の有職文化から生まれた有職料理は京料理の系譜の一つ。京都の生間家は平安期に始まった宮廷料理方で、生間流式庖丁が伝わる。



京菓子

宮廷文化への憧れを背景に茶道の文化と結びついで発展した京菓子は、古典の影響を受け、芸術性や文学性に富んでいる。



平安神宮

平安遷都1100年を記念して創建。社殿は平安京の大極殿や応天門を模したもの。時代祭は、平安期から千年の時代風俗を再現する華麗な行列を繰り広げる。



西陣織・京友禅

平安貴族の中で生まれた「襲ねの色目」など、季節の自然を日々の暮らしに取り入れ、色彩の変化を尊ぶ感性は、日本伝統の美意識として広く受け継がれている。



京人形

平安貴族の“ひいな遊び”の人形が起源。天皇の御所のようなすを模して人形飾りをするようになった。製作工程は細かく分業化され、熟練工の手仕事によって行われる。